

谷崎潤一郎記念館の催し

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852/☎38-3244/
✉ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp

【文学館講座】作家・柳谷郁子が語る ～名作の愉(たの)しみ～

■日時 1月26日(木)午前10時30分～正午 ■会場 講義室 ■内容 井伏鱒二作『黒い雨』を取り上げ、作家・柳谷郁子氏が作品の背景・作家の心情などを解説 ■定員 16人 ■受講料 2,300円(入館料300円含む) ■申し込み 上記へ

開館時間・午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)(月曜日休館)

美術博物館の催し

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432



【津高和一～ねこがみた現代美術展】ギャラリートーク

■日時 1月21日(土)午後2時～ ■会場 展示室 ■内容 本展の写真出品者・吉野晴朗氏による解説・案内 ■参加費 要観覧料一般300円・大高生200円・中学生以下無料 別途団体割引あり。高齢者・障がい者手帳所持者は半額 ■申し込み 直接会場へ

【阪神・淡路大震災回顧展】講座「芦屋市の防災」

■日時 1月22日(日)午後1時30分～3時 ■会場 講義室 ■講師 日本災害復興学会会員・西岡喜久男氏 ■参加費 500円(入館料・資料代含む) ■申し込み 事前に上記へ

芦屋市・川西市国史跡指定 合同記念事業 記念のつどい

弥生時代の高地性集落遺跡会下山遺跡(芦屋市)と巨大集落加茂遺跡(川西市)について、楽しく学んでみませんか。

■日時 2月18日(土)午後1時30分～4時
■会場 ルナ・ホール
■講師 兵庫県立考古博物館長・石野博信氏
■出演 落語家・桂雀々
■定員 600人(*応募多数の場合は抽選)
■申し込み 往復はがきに、住所・氏名・電話番号・参加人数を記入の上、1月31日(火)までに下記へ

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115
(〒659-8501 住所不要)

1月後半 CATV 広報番組ガイド

番組名	放送時間(15分)
オープニング	大槻公園から 8:30
トピックス	芦屋市消防出初め式 12:00
特集	阪神・淡路大震災回顧展 16:00
	精進小学校 阪神・淡路大震災を学ぶ「語り継ぐ会」 18:15
お知らせ	芦屋市・川西市 国史跡指定合同記念事業「記念のつどい」に参加しませんか? ※DVD
エンディング	「芦屋 橋ものがたり」より 貸出可

■広報番組「あしやトライあぐる」は、11ch(一部地域を除く)でご覧ください。
■番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ 機ケーブルネット神戸芦屋(J-COM)カスタマーズセンター ☎0120-999-000
1月前半・番組ガイドの、放送時間帯等の表記に誤りがありました。
【お詫びと訂正】正しい放送時間は、上記の通りです。お詫びして、訂正します。



記念館の庭園。谷崎の関西最後の住居「潺湲亭」の庭を模したものである。



谷崎潤一郎記念館

【谷崎潤一郎記念館】
■所在地ほか 〒659-0052 伊勢町12番15号 / ☎ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp
HP: http://www.city.ashiya.lg.jp/shisetsu/tanizaki.html
■入館時間等 午前10時～午後5時 入館4時30分まで / 月曜日休館(祝日の場合は翌日)
■入館料 300円



愛用の三味線(三弦)と帯

【谷崎愛用の三味線】
谷崎は阪神間に移住後、関西に根差した伝統文化に傾倒していき、人形浄瑠璃劇に淡路島まで通い、地唄や三弦のけいこにも励み、地声はお世辞にも美しいとはいえない谷崎ですが、この三味線とどんな唄を響かせていたのでしょうか。



残月時絵硯箱と筆・文鎮

【残月時絵硯箱】
谷崎の愛した地唄の中でも、とりわけお気に入りの唄目「残月」。自分の葬儀にはこの曲を流してほしい、と言っていたほどでした。谷崎の生誕祭が「残月祭」と名付けられたのも、こうした愛着にちなむものです。残月(明け方に響くも残る月)を金時絵で浮かび上らせた遺愛の硯箱は、文豪が魅せられた音の揺らぎを潜めています。

冬の通常展 特設コーナー 期間: 1月5日～3月25日(休館日曜日・祝日の場合翌日)

作家たちの直筆原稿 『谷崎潤一郎作品集』の推薦文

創元社が昭和25年に『谷崎潤一郎作品集』全9巻を刊行した際、作家たちに「推薦の言葉」を依頼し、当時を代表する作家・文学者らが応じました。本コーナーでは、それらのうち正宗白鳥・舟橋聖一・吉屋信子・和辻哲郎・小林秀雄・日夏耿之介・辰野隆の7人の直筆原稿を展示します。作家たちの肉筆は、その個性を多分に表しています。それぞれの作家たちが、どのように谷崎文学を推奨したのか...。その躍動する字体と内容をご覧ください。

舟橋聖一の推薦文

収蔵品から



谷崎潤一郎記念館・玄関

記念館の一点に及ぶ収蔵品から逸品を二点紹介します。いずれも、三月二十五日まで開催中の通常展「谷崎潤一郎」と作品で展示しています。

【谷崎愛用の三味線】
谷崎は阪神間に移住後、関西に根差した伝統文化に傾倒していき、人形浄瑠璃劇に淡路島まで通い、地唄や三弦のけいこにも励み、地声はお世辞にも美しいとはいえない谷崎ですが、この三味線とどんな唄を響かせていたのでしょうか。

また、昨年十一月十八日にルナ・ホールで開催した朗読演劇「春琴抄」では、落語家・桂米團治さんとパーソナリティー・鈴木美智子さんの熱演が、約四百人の観客に深い感動を与えました。

本年で開設二十四年となる記念館ですが、その道のりは必ずしも平坦とは言えないものでした。特に、阪神・淡路大震災の年には、年間入館者が約五千人にまで減少しました。しかしその後は、市民をはじめ、

多くの文学愛好家、谷崎ファンに支えられて着実な歩みを続け、昨年十一月末には、総入館者が三十万人を突破するところになりました。

数寄屋造風の外観は、谷崎が戦後移り住んだ、関西最後の邸宅「京都池をたたる館内」の庭も、潺湲亭の日本庭園を再現、四季折々の美しさを堪能いただけます。谷崎潤一郎記念館でゆったりとした時間を過ごしてください。

特集 谷崎潤一郎記念館

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852

谷崎潤一郎記念館は、昭和63年秋に谷崎潤一郎ゆかりの地である芦屋の文化ゾーンにオープンし、今年で開館24年目を迎えます。また、昨年11月末には、開館以来の総来館者数30万人を突破することができました。

新たな年を迎え、今回は文豪・谷崎潤一郎と芦屋とのかわり、また谷崎文学の顕彰の軌跡ほか、新春の催し物や記念館のあゆみをご紹介します。



谷崎が松子と祝言を挙げた打出の家(現・富田砕花旧居・宮川町)

谷崎潤一郎記念館は、文豪・谷崎潤一郎およびその文学の顕彰と周知を主目的とする文学館です。

記念館は、昭和六十二年秋、ゆかりの地・芦屋に、市の文化ゾーン構想の核として開館しました。松子夫人をはじめ親族関係者からの寄贈品を中心に、一万点を超す多彩な資料を収蔵展示しています。

開館以来、特別展「通常展・ロビー・ギャラリー」での展示を軸に、谷崎の生誕祭・残月祭・文学講座をはじめとする文化講座や映画会の主催など、多彩な文化活動を展開しています。

昨年の特別展(十月一日～十二月二十五日)では、「妖しの世界への誘い 谷崎・乱歩・横溝」のテーマで、妖し



「妖しの世界への誘い-谷崎・乱歩・横溝」展示風景



書斎(吉川英治から贈られた机)と「雪後庵夜話」冒頭の谷崎の歌

記念館 二十四年の歩み



潤一郎と松子 打出の家の庭で(昭和9年)



松子夫人揮毫による「細雪」の碑(東芦屋町)

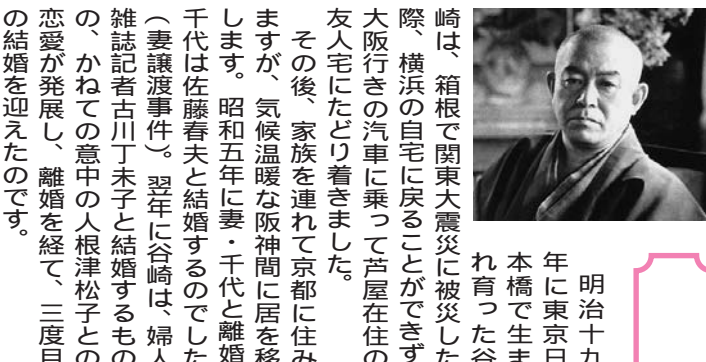
ついに昭和九年三月には打出の家で同棲生活を始め、翌年一月に結婚となります。谷崎は昭和十一年十一月まで、松子とその妹・重子、信子、松子の連れ子・恵美子と共に生活を営み、谷崎はこの家の土蔵を齋とし、「源氏物語」の現代語訳や「猫と庄造と二人のをんな」などを手がけます。

しかし、家が手狭なことと周囲の騒音を苦慮し、神戸住吉の家(現・倚松庵)に転居するのです。倚松庵での暮らしは、まさに「細雪」さながらの生活でした。モデルとなったのは、松子姉妹と娘の恵美子。松子姉妹は幸子・雪子と名を変えながら、戦時下における、その優雅な暮らしの描写から、戦後大ベストセラーとなりました。

谷崎邸は住吉でしたが、作品で主人公たちの住居は芦屋となっていました。谷崎夫妻の仲人が阪急芦屋川駅として登場するのは、昭和十七年から熱海の別荘や疎開先の岡上で書き進められ、戦後京都で完結しました。執筆の地は軽々としなやかに、谷崎は作品舞台である芦屋をこよなく愛した。独特の風景・風俗を描き上げました。谷崎作品の中では異色とも言える作風ながら、その堅牢な美的世界の描出から普遍性を獲得し、今も世界中で愛読されています。



文化ゾーンと谷崎潤一郎記念館(白枠内)



明治十九年に東京日本橋で生まれた谷崎潤一郎

谷崎潤一郎と松子

谷崎潤一郎記念館は、文豪・谷崎潤一郎およびその文学の顕彰と周知を主目的とする文学館です。

記念館は、昭和六十二年秋、ゆかりの地・芦屋に、市の文化ゾーン構想の核として開館しました。松子夫人をはじめ親族関係者からの寄贈品を中心に、一万点を超す多彩な資料を収蔵展示しています。

開館以来、特別展「通常展・ロビー・ギャラリー」での展示を軸に、谷崎の生誕祭・残月祭・文学講座をはじめとする文化講座や映画会の主催など、多彩な文化活動を展開しています。

昨年の特別展(十月一日～十二月二十五日)では、「妖しの世界への誘い 谷崎・乱歩・横溝」のテーマで、妖し

また、昨年十一月十八日にルナ・ホールで開催した朗読演劇「春琴抄」では、落語家・桂米團治さんとパーソナリティー・鈴木美智子さんの熱演が、約四百人の観客に深い感動を与えました。

本年で開設二十四年となる記念館ですが、その道のりは必ずしも平坦とは言えないものでした。特に、阪神・淡路大震災の年には、年間入館者が約五千人にまで減少しました。しかしその後は、市民をはじめ、

多くの文学愛好家、谷崎ファンに支えられて着実な歩みを続け、昨年十一月末には、総入館者が三十万人を突破するところになりました。

数寄屋造風の外観は、谷崎が戦後移り住んだ、関西最後の邸宅「京都池をたたる館内」の庭も、潺湲亭の日本庭園を再現、四季折々の美しさを堪能いただけます。谷崎潤一郎記念館でゆったりとした時間を過ごしてください。

付近に住んでおり、谷崎は執筆のために滞在し周囲を散策したのです。そして、作品の随所に芦屋の風景を描いたのでした。着物姿の三姉妹が目玉を集める華やかな場面は、阪急芦屋川駅北側の水道路現・山手サンモールが舞台となっています。

また、四女の妙子洋裁の先生宅で阪神大書生に被災しますが、モデルとなった田中千代洋裁学校の碑は今も大原町にあります。芦屋川上流の閑静構付近には松子が揮毫した「細雪」の碑があり、芦屋川駅北の重信医院は、作品中「榎田医院」として登場するのです。

作品の執筆は、昭和十七年から熱海の別荘や疎開先の岡上で書き進められ、戦後京都で完結しました。執筆の地は軽々としなやかに、谷崎は作品舞台である芦屋をこよなく愛した。独特の風景・風俗を描き上げました。谷崎作品の中では異色とも言える作風ながら、その堅牢な美的世界の描出から普遍性を獲得し、今も世界中で愛読されています。

谷崎潤一郎と芦屋

付近に住んでおり、谷崎は執筆のために滞在し周囲を散策したのです。そして、作品の随所に芦屋の風景を描いたのでした。着物姿の三姉妹が目玉を集める華やかな場面は、阪急芦屋川駅北側の水道路現・山手サンモールが舞台となっています。

また、四女の妙子洋裁の先生宅で阪神大書生に被災しますが、モデルとなった田中千代洋裁学校の碑は今も大原町にあります。芦屋川上流の閑静構付近には松子が揮毫した「細雪」の碑があり、芦屋川駅北の重信医院は、作品中「榎田医院」として登場するのです。

作品の執筆は、昭和十七年から熱海の別荘や疎開先の岡上で書き進められ、戦後京都で完結しました。執筆の地は軽々としなやかに、谷崎は作品舞台である芦屋をこよなく愛した。独特の風景・風俗を描き上げました。谷崎作品の中では異色とも言える作風ながら、その堅牢な美的世界の描出から普遍性を獲得し、今も世界中で愛読されています。

市制施行70周年記念写真集 「芦屋の四季・70選」発売中

市では、市民の皆さんからの公募写真でつづった市制施行70周年記念写真集「芦屋の四季・70選」を、発売しています。

市民の皆さんが切り撮った美しい現在の芦屋風景を、市制施行70周年の記念として、未来の自分への、また遠方のご家族や親しいかたへのプレゼントとしても、ぜひご利用ください。

■発売所 市役所北館1階行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー
■定価 1,000円

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

「芦屋市ガイドマップ」を差し上げます

全市の市街図のほか、市章の由来、市の木・市の花の紹介、市内の主な施設・窓口案内、歴史や「芦屋 橋ものがたり」などを掲載しています。また、本市の憲法ともいうべき「国際文化住宅都市建設法」を、ミニ特集として取り上げています。

1人に1部を、市役所北館1階行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナーで差し上げています。

必要なたは、上記へお申し出ください。

※印刷部数に限りがありますので、複数部数が必要な方は、広報課へご相談ください。

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

芦屋シティグラフ (ASHIYA CITY GRAPH) 好評発売中!

市では、このたび「芦屋シティグラフ」(A4判・52ページ/全カラー刷り)を新しく発行しました。

写真とイラストを多用し、芦屋の自然や史跡・名所、市内の施設やまちの楽しみ方を紹介。後半には、行政の動きや統計などの情報も掲載しています。眺めるだけでも楽しい1冊です。ぜひ、一度手に取ってご覧ください。

新しい「芦屋シティグラフ」は、下記で発売しています。

■発売所 市役所北館1階行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー
■定価 300円

問い合わせ 広報課 ☎38-2006